

津軽白神

ふれあい通信

林野庁
津軽白神森林生態系
保全センター

平成 27 年 11 月 6 日

No.113

ニホンジカ 相次いで確認



確認されたニホンジカ

今年度ニホンジカ監視のため白神山地周辺地域に設置したセンサーカメラは、当初は25台でしたが9月に2台追加し、合計27台で鱒ヶ沢町・深浦町・弘前市・西目屋村を広域にモニタリングしてきました。これまでキツネやカモシカ等、おなじみの動物が日々記録されてきましたが、10月に入って突如、ニホンジカが撮影されるようになりました。当センターのカメラでは今のところ鱒ヶ沢町で1箇所、深浦町で2箇所、西目屋村で1箇所、それぞれ1頭ずつ撮影されています。「白神の森遊山道」でも環境省設置のカメラで1頭撮影されました。今後はデータ回収のペースを早め、生息状況のさらなる把握に努めます。(有本)



「白神山地・西目屋村シンポジウム」を開催



白神山地周辺地域における地域振興や観光の推進を目的として、10月21日(水)、青森県西目屋村と当センターの共催により、西目屋村アクアグリーンビレッジANMON広場で在札幌米国総領事館のジョエレン・ゴーク首席領事をお招きし「白神山地・西目屋村シンポジウム」を開催しました。

シンポジウムに先立ち、首席領事をはじめ関係者で暗門の滝周辺のブナ林を散策しました。天候にも恵まれ、ガイドを通じて、鮮やかなブナの黄葉を楽しみながら、森林生態系の保全や人々との関わりについて、理解を深めていただきました。

その後、シンポジウムでは、「西目屋の宝もの、発見！～女性目線で見ると地域振興～」をテーマに関係者約50人が参加し、首席領事はあいさつで、青森県むつ市に留学していたことを振り返り、



「当時、日本語が話せなかったが皆が気遣い温かく迎えてくれた。白神山地の自然や県民が素晴らしい。この地域の温かいおもてなしを他の国の人々にも体験してほしい」と話しました。

パネルディスカッションでは、コーディネーターに青森県林業会議参与田村早苗さんを迎え、パネリストに弘前逍遙倶楽部一條敦子さん、白神マタギ舎小池宏美さん、ブナの森白神公社神孝子さん、黒一点(?)の関西目屋村長で行われ、女性視点からの地域振興



や白神山地の観光のあり方について活発な意見が出され、関村長は女性視点からの意見は重要で今後も女性視点からの意見を聴き白神観光や地域振興を進めたいと話しました。

今回のシンポジウムを契機に、白神山地周辺地域の振興や発展に多少なりとも貢献ができればと考えています。(石田)

上段：ブナ林の散策を楽しむゴーフ首席領事

下段：シンポジウムの様子

森林と人との協議会開催

10月7日(水)西目屋村の白神山地ビジターセンター会議室で「白神山地周辺の森林(もり)と人との共生活動に関する協議会」を開催しました。



当日は、学識経験者をはじめ、行政の担当者やボランティア団体の代表の方々など、12名の委員の方々に出席いただき、ボランティアによる白神山地周辺地域での自然再生活動のありかたなどについて協議しました。

会議では、冒頭、東北森林管理局の飯塚森林整備部長の挨拶があり、続いて牧田肇座長(弘前大学名誉教授)の司会によって、議事に入りました。

議事では、当センター及び各団体から、平成26年度と27年度の自然再生活動について報告がありました。

自然再生活動について協議しました

平成27年度については、当センターをはじめ各団体から、白神ラインや赤石溪流線が不通になっているため、思うように活動ができなかった旨の報告がありました。そのような中でも、当センターにおいては当初の予定どおり3回の一般募集による自然再生活動を実施できました。

続く議事では、今年度、深浦町で確認されたマツクイムシの被害状況について、青森県及び津軽森林管理署の担当から報告がありました。これは、秋田県境から20km以上も離れた箇所で確認されているため、なんらかの原因で突発的に発生したものであり、県境から侵入してきたものではないと判断されていますが、今後も注視していくこととしています。

終わりに、今後の自然再生活動のありかたや、自然再生活動について広く、また散発的にならないようPRしていく方法を検討していくことで、会議を終了しました。

当センターにおきましては、この協議会の意見をふまえて、今後のより良い自然再生への取組むけて、活動して参りたいと考えています。（三浦）

秋の森林教室を開催



笑い声が飛び交う楽しい場となりました

10月24日（土）、深浦町と当センターの共催で、十二湖自然休養林において、一般参加者30名を募り、第2回目の森林教室を開催しました。

今回の森林教室は、今まで以上に、より広く当センターの活動内容や、白神山地の素晴らしさをPRするため、青森県側のみではなく秋田県側の皆さんにもご参加いただくために、秋田駅発として実施しました。

当日は、秋田を出発するころは小雨模様でしたが、十二湖に到着して散策をはじめたら、本格的な雨となりました。

当初予定していたコースでは、参加者の皆さんの負担が大きくなってしまうと判断して、コースを短縮し、「十二湖エコ・ミュージアムセンター湖郷館」でお昼を取ることにしました。

午後は、引き続きエコ・ミュージアムセンターで、当センター職員が白神山地の成り立ちから、生態系、周辺地域の文化など多岐にわたって解説をしました。この座学によって、白神山地への理解をより一層深めてもらったものと考えています。

今回の森林教室は、雨天でコースの短縮などもありましたが、今後も引き続き白神山地の素晴らしさをPRするためにも、森林教室の取組みを続けていきたいと考えています。（三浦）

木工教室 大好評！！



両日とも来場者で賑わいました

10月17日、18日に中津軽郡西目屋村にある青森県白神山地ビジタセンターにおいて開催されましたふれあいデーに当センターも参加し、白神山地のPRと木材のPRのため、親子木工教室を開催しました。

17日（土）は約1,000人、18日（日）は1,400人と人口1,500人足らずの西目屋村に大勢の人が集まり大盛況となりました。

当センターのコーナーでは両日とも抽選で選ばれた50組の親子が杉の間伐材を使った木馬やプランター作りなどを体験してもらいました。

かなづちで指をはたく者や釘打ちがうまくできない人など悪戦苦闘しながらも「杉の香りがいい」とか「作ったものをどう使おうかな」とかそれぞれに楽しみながら木材と触れあっていただきました。

次回も楽しみにしているとの声が多く、大好評のうちに終了しました。

当センターでは、今後もこのようなイベントを通して、木材の良さや国産材の利用促進などについてお伝えしていきたいと考えています。（川村）

修学旅行生を案内



職員の案内で森林内を歩く生徒

10月22日（木）白神の森遊山道「くろもり館」の依頼により当センター職員4名が修学旅行生のガイドを行いました。

東京都の中学生235名が訪れ、10班に分かれて白神の森遊山道を約1時間散策しました。

普段土の上を歩く機会があまりないと話す生徒のみなさんは、白いスニーカーが泥で汚れていくのにも気にとめず、自然との貴重な体験を楽しんでいました。

時間の制約があり、我々も伝えたい事を十分に伝える事が出来なかったと感じていますが、その中でも新しい発見や感動などを少しでも伝える事ができたならうれしく思います。（久保）

